

# 浦幌町豊北海岸の主な植物の概要

## ～主として海浜植物～

中川公郎

### 1. はじめに

昭和63年4月、縁があつて浦幌町立新養老小学校に奉職する機会を得、以来平成4年3月定年退職を迎えるまでの4年間、浦幌町において勤務させて頂いた。

新養老小学校の校下には、生剛、朝日、養老、豊北の4行政区があるが、そのうちの豊北行政区の海岸一帯は、俗に「豊北海岸」と呼ばれ、海浜植物の多いことによく知られた所である。

もっとも、海浜植物の多い所は、正確には、豊頃町の行政区に入る「トイトッキ浜」と呼ばれている地域が大部分を占め、「北海道指定天然記念物大津・トイトッキ浜野生植物群落」がその中心をなしている所である。

過去4年間、豊北海岸の植物を中心に、新養老小学校校下の野草について、児童たちとともに、その生態や分布について観察を重ねてきた。観察した野草の数は、年によって差はあるが、平均してみると、一年におよそ120種類ぐらいいつも観察してきたであろうか。

その成果については、平成4年2月15日に開催された「新養老小学校公開研究会」において、『自然に親しみ 自然から学ぶ子どもの育成』と題して発表したところである。

今回、浦幌町郷土博物館の依頼により、豊北海岸の植物生態について、改めてまとめてみたのがこの小報告である。

過去に、これに類した論文がないことであるが、この小報告も、当然のことながら、必ずし

も総てを網羅しているわけではない。それに、植物名や花期などにしても、全く誤りがないとは言えないかも知れないが、できるだけ正確を期してあいまいなものはカットすることにした。

また、記述内容は植生にしばっており、天然記念物としての原生花園の保護の在り方までについてはふれていない。

なお、この報告は、昭和63年から平成3年までの4シーズン、新養老小学校において「ゆとりの時間」として児童とともに観察してきたものを基底とし、さらに平成4年7月上旬から8月下旬にかけての観察を加えてまとめたものである。

### 2. 豊北海岸について

ここは、全体的には『海岸草原』とよばれる地帶であるが、植物社会として大別すると「海岸砂浜群落」と「海岸草原群落」の2つに分けることができる。

一般的な『海岸草原』は、北海道特有の草原植生で、北方系の植物を多く含んでいて、しかも同一の植物が広く群生しているという特徴を持つ。

さらに北海道の北・東部沿岸では、普通には高山（亜高山も含めて）に生育するとされている高山性の植物も混生するのが普通である。

北海道では、こうした大規模な『海岸草原』が主にオホーツク海沿岸と東部の太平洋沿岸に広がっている。

このような『海岸草原』は、気候・地質など特殊な環境要因によって森林の生育が制限され、低木や草本の段階で遷移のとどまった極相と考えら

### ●目次

浦幌町豊北海岸の主な植物の概要～主として海浜植物～	中川公郎	2
浦幌新四国八十八ヶ所について（上）	新宮廣	9

**写真説明：JR浦幌駅油庫** 明治36年12月に開業した浦幌駅の創業時から使用されているという油庫。（後藤秀彦）

れるが、豊北海岸はまさにその様相そのものであろう。

### 3. 豊北海岸における各群落の特徴

#### (1) 海岸砂浜群落

この群落は、海岸線に沿って発達していて、文字通り、海岸の砂浜やそれに続いた砂州に本拠をもつ群落である。

海から押し寄せる塩水、あるいは塩分を含んだ潮風、その他植物にとって非常に不利な条件下にあるので、ここに群生する植物は、いわゆる塩生植物をはじめとして、耐塩植物や再生力の強い植物、また、多肉質あるいは硬葉植物のような特別な植物が多い。

豊北海岸では、オカヒジキが波打ち際に生育しているのが観察されたが、その個体数は非常に少なく、どこでも観察できるというわけではない。

豊北海岸における「海岸砂浜群落」の優占種としては、ハマニンニクが挙げられる。波打ち際にから内陸にかけて海岸一帯に見られる。それに混在してエゾノコウボウムギ、ハマボウフウ、ハマニガナ、シロヨモギなどが見られる。ハマナスやハマエンドウも砂浜群落の一員であるが前述のものよりはやや内陸に生育し、このあたりから次の「海岸草原群落」へと移行する。

#### (2) 海岸草原群落

砂州から内陸に続く一部の地帯を指すが、地質的には、ほとんどが砂地に近いと考えてよいところである。

ここは、豊北海岸原生花園において中心をなしている群落で、その代表的なものは、町の花

にも指定されているハマナスである。ハマナスは木本であるから野草とはいえないが、花として、原生花園の主役を担っている。

次いでノハナショウブとヒオウギアヤメの群落が目立つ。この二つは、大変よく似ていて見分けにくいが、花の色と咲く時期によって区別する。すなわち前者は紅紫色で6月から7月にかけて咲くのに対して、後者は青紫色で7月から8月にかけて咲くのが普通である。

ほかに目立つ群落をつくるものとしては、センダイハギ、ハマエンドウなどがある。

また、群落はつくらないが、この海岸草原の優占種として、エゾノヨロイグサ・マルバトウキがある。大体7月から9月にかけて、草原一帯に咲き誇っているのが見られる。

草原内の道沿いには、非常に多くのハマフウロがピンク色の可憐な花を咲かせている。

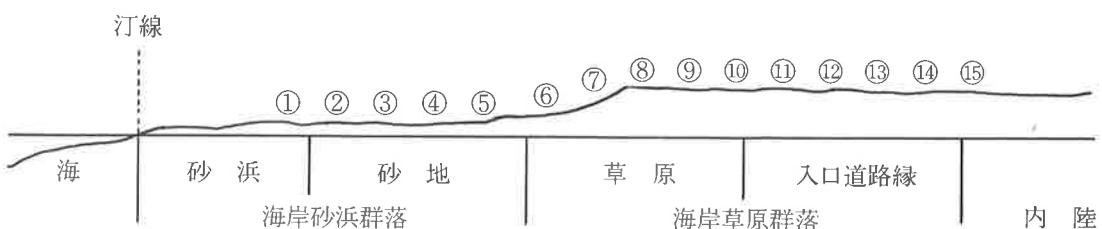
この草原の内陸寄りには、高山植物であるガンコウラン（がんこうらん科の木本）が、地面を覆うように大きな群落をつくり、その中にコケモモ（つつじ科の木本）が混生している。

他にもたくさんの種類の花が見られるが、詳しくは後述する。

#### (3) その他の地帯の群落

大きく分けると前述の(1)と(2)になるが、原生花園の入口付近の植物には、また多少違ったものが見られるので参考までに記述する。

入口付近というのは、およそ500mほど手前さから入口までを指しているが、入口にはヒヨドリバナ（ヨツバヒヨドリを含む）・ナガボノシロワレモコウ・ホザキシモツケなどの群落が



- ①オカヒジキ ②ハマボウフウ ③ハマニンニク ④ハマニガナ ⑤エゾノコウボウムギ ⑥ハマナス ⑦ハマエンドウ ⑧ノハナショウブ
- ⑨マルバトウキ ⑩ヒヨドリバナ ⑪ワタスゲ ⑫サワギキョウ ⑬ヤマブキショウマ ⑭タチギボウシ ⑮クサフジ

Fig. 1 豊北海岸植生模式断面図

が目立ち、道路沿いには、サワギキョウ・ヤマブキショウマ・タチギボウシ、さらに原野（海岸に向かって右側）には、ワタスゲが群落をつくっている。

その他エゾゼンティカ（別名エゾカンゾウ）クサフジなども見られる。

#### 4. 豊北海岸に見られる帰化植物について

##### (1) 帰化植物の定義

「帰化植物とは、自然の営力によらず、人為的営力によって、意識的または無意識的に移入された外来植物が野生の状態で見いだされるものをいう」と定義されている。

これをもう少し具体的にいうと、帰化植物の条件は、次の3つになる。

第一は、“人間がよそから持ち込んだ植物である”ということである。たとえば、飼料作物としてのオーチャードグラス（カモガヤ）のように意識的に移入されたものや、ヒエのようにイネに混じってきたものなどを指す。

第二は、“野生の状態で見出される”ということである。意識的に移入されたものであっても、現在栽培されている状態のものは帰化植物とは言えない。

第三は、“外来植物である”ということである。本州の植物が北海道に広がったという

ような場合は帰化植物とは言えず、あくまで“よその国から”でなければならない。

##### (2) 豊北海岸における帰化植物の概観

定義からもわかるように、帰化植物は外国との接点の多い所、例えば貿易港などの近くから広まっていくものであるから、都市化の進んでいる地域ほど多いのが普通である。

しかし、それほど都市化の進んでいない浦幌町においても、かなりの帰化植物が見られるので、ここでは豊北海岸に見られる帰化植物に限って掲載する。

植物名	科名	原産地
・アレチマツヨイグサ	…あかばな…	北米
・イヌカミツレ	…きく…	欧洲
・オオアワガエリ	…いね…	欧亜
・カモガヤ	…〃…	〃
・キヌガサギク	…きく…	北米
・コシカギク	…〃…	亜(北東部)
・シロツメクサ	…まめ…	欧洲
・セイヨウノコギリソウ	…きく…	〃
・ハナガサギク	…〃…	北米
・ヒメジョオン	…〃…	〃
・ヒメムカシヨモギ	…〃…	〃
・ムラサキツメクサ	…まめ…	欧洲

#### 5. 浦幌町豊北海岸を中心とする主な植物一覧（含入口道路沿い）

(五十音別)

番号	植物名	( )内科名	花期(月)	草丈(cm)	花の色
1	アレチマツヨイグサ	(あかばな)	6~9	30~150	黄
2	イヌゴマ	(しそ)	6~8	40~70	ピンク
3	イヌカミツレ	(きく)	6~8	20~60	白・黄
4	ウシノケグサ	(いね)	6~8	20~40	茶
5	ウツボグサ	(しそ)	6~8	15~30	紫
6	ウンラン	(ごまのはぐさ)	7~9	15~40	黄
7	エゾオオバコ	(おおばこ)	6~8	15~30	茶
8	エゾオトギリ	(おとぎりそう)	7~8	20~60	黄
9	エゾコゴメグサ	(ごまのはぐさ)	8~10	15~25	白
10	エゾゼンティカ	(ゆり)	6~8	40~70	オレンジ
11	エゾニュウ	(せり)	7~9	100~300	白
12	エゾノコウボウムギ	(かやつりぐさ)	6~7	10~20	茶
13	エゾノヨロイグサ	(せり)	7~8	100~200	白
14	エゾミソハギ	(みそはぎ)	7~8	50~100	ピンク
15	エゾリンドウ	(りんどう)	8~9	30~100	青紫
16	オオアワガエリ	(きく)	6~8	10~20	茶

番号	植 物 名	( )内科名	花 期 (月)	草丈 (cm)	花 の 色
17	オオヤマフスマ	(なでしこ)	6~7	10~20	白
18	オオヨモギ	(きく)	8~10	150~200	茶
19	オカヒジキ	(あかざ)	7~9	10~40	/
20	カセンソウ	(きく)	7~9	30~80	黄
21	カモガヤ	(いね)	6~8	80~120	緑
22	カラマツソウ	(きんぽうげ)	6~9	50~120	白
23	ガンコウラン (木本)	(がんこうらん)	5~6	10~30	赤
24	キバナノカワラマツバ	(あかね)	6~8	40~60	黄
25	キヌガサギク	(きく)	7~9	40~80	舌黄(筒茶)
26	クサフジ	(まめ)	6~8	80~150	青紫
27	クサレダマ	(さくらそう)	7~8	40~80	黄
28	コウゾリナ	(きく)	7~10	30~150	黄
29	コウボウウシバ	(かやつりぐさ)	6~7	10~20	茶
30	コガネギク	(きく)	8~10	15~50	茶
31	コケモモ (木本)	(つつじ)	6~7	5~20	赤
32	コシカギク	(きく)	6~9	5~40	黄
33	コツマトリソウ	(さくらそう)	6~7	10~15	白
34	サワギキョウ	(ききょう)	8~9	80~100	青
35	シオガマギク	(ごまのはぐさ)	8~10	30~60	赤
36	シコタンキンポウゲ	(きんぽうげ)	6~8	25~50	黄
37	シコタンタンポポ	(きく)	6~8	15~30	黄
38	シロツメクサ	(まめ)	6~10	15~30	白
39	シロバナスミレ	(すみれ)	6~7	10~15	白
40	シロヨモギ	(きく)	8~10	20~60	黄
41	スズメノヤリ	(いね)	6~7	10~30	茶
42	セイヨウノコギリソウ	(きく)	8~9	60~100	ピンク・白
43	センダイハギ	(まめ)	6~7	40~80	黄
44	タチギボウシ	(ゆり)	6~8	50~100	紫
45	チシマセンブリ	(りんどう)	8~9	10~40	紫
46	ツリガネニンジン	(ききょう)	7~8	40~100	青
47	ツルキジムシロ	(ばら)	6~7	20~30	黄
48	トモエソウ	(おとぎり)	7~8	40~70	黄
49	ナガハグサ	(いね)	5~7	10~50	緑
50	ナガボノシロワレモコウ	(ばら)	8~9	80~130	白
51	ナミキソウ	(しそ)	7~9	10~40	紫
52	ネジバナ	(らん)	6~8	10~40	ピンク
53	ノコギリソウ	(きく)	7~10	50~100	ピンク・白
54	ノハナショウブ	(あやめ)	6~7	50~80	紫
55	ノミノフスマ	(なでしこ)	6~10	5~20	白
56	ハチジョウナ	(きく)	8~10	30~100	黄
57	ハナイカリ	(りんどう)	8~9	10~60	緑
58	ハナガサギク	(きく)	8~10	100~200	黄
59	ハマエンドウ	(まめ)	6~7	20~60	赤紫

番号	植物名	( )内科名	花期(月)	草丈(cm)	花の色
60	ハマナス(木本)	(ばら)	7~8	5~150	ピンク
61	ハマニガナ	(きく)	6~7	3~15	黄
62	ハマニンニク	(いね)	6~7	50~100	/
63	ハマハコベ	(なでしこ)	7~9	10~30	白
64	ハマハタザオ	(あぶらな)	6~7	20~40	白
65	ハマフウロ	(ふうろそう)	7~8	30~80	ピンク
66	ハマボウフウ	(せり)	5~7	5~40	白
67	ヒオウギアヤメ	(あやめ)	7~8	30~90	青
68	ヒメイズイ	(ゆり)	6~7	15~30	白
69	ヒメジョオン	(きく)	6~10	30~100	白
70	ヒメシロネ	(しそ)	8~10	30~70	白
71	ヒメムカシヨモギ	(きく)	8~10	50~180	黄
72	ヒヨドリバナ	(きく)	8~9	100~200	暗紅色
73	ヒロハトンボソウ	(らん)	7~8	25~50	黄緑
74	ヒロハノカワラサイコ	(ばら)	7~8	20~50	黄
75	ホザキシモツケ(木本)	(ばら)	7~9	80~120	ピンク
76	マイヅルソウ	(ゆり)	5~7	10~25	白
77	マルバトウキ	(せり)	7~9	50~100	白
78	ムラサキツメクサ	(まめ)	6~10	30~50	赤
79	ヤナギタンポポ	(きく)	7~9	40~80	黄
80	ヤマハハコ	(きく)	8~9	30~70	白
81	ヤマブキショウマ	(ばら)	6~8	30~80	黄
82	ヨツバヒヨドリ	(きく)	8~9	100~200	暗紅色
83	ワタスゲ	(かやつりぐさ)	6~8	20~50	白

## 6. おわりに

前述したように、この小報告には必ずしも正確とは言えないところがあるので、特に次の二点について補足しておく。

### (1) 花期について

花の咲く時期を特定することはなかなか難しく、初めて咲く花から最後に咲く花までの期間を花期とすれば、かなり長い期間になるが、観察が容易ではない。

それで、この小報告では花期を、できるだけ「豊北海岸でその花がよく目につく時期」ということで特定することにした。

従って、内陸にも生育するものについては気候の厳しさから、各種図鑑などに記載されている花期よりも、若干遅くなっているものがあるということを承知されたい。

しかし、観察回数の少なさから、総てというわけにはいかなかったので、一部は参考文

献によって記載している。

### (2) 草丈について

もともと草丈というのは、気候や土地の善し悪し、また種子の質などによって違いがあるのが普通である。

特に豊北海岸は、気候・土地ともに内陸と比べると厳しい条件の下にあるので、そこに生育するものは、海浜植物を除いて、全体的に、内陸のものより草丈の低いものが多いといえる。

草丈については、総て参考文献によって記載しているので、どちらかと言えば低い方と思ってもらえばよいかと思う。

(元浦幌町立新養老小学校教諭)

## 参考・引用文献

原色日本植物図鑑 I ~ III 北村四郎・村田 源  
共著 (和名・科名はこれによる)



2. イヌゴマ



5. ウツボグサ



11. エゾニュウ



14. エゾミソハギ



15. エゾリンドウ



22. カラマツソウ



28. コウヅリナ



30. コガネギク



33. コツマトリソウ



35. シオガマギク



36. シコタンキンポウゲ



37. シコタンタンポポ



39. シロバナスマリ

原色日本帰化植物図鑑 長田正武 著  
北海道植物教材図鑑=野の花= 谷口弘一・三  
上日出夫 編  
北海道植物教材図鑑=続・野の花= 谷口弘一・  
三上日出夫 編



43. センダイハイギ



46. ツリガネニンジン



48. トモエソウ



57. ハナイカリ



59. ハマエンドウ



60. ハマナス



65. ハマフウロ



68. ヒメイズイ



75. ホザキシモツケ



76.マイジルソウ



81. ヤマブキショウマ



82. ヨツバヒヨドリ

オホーツクの植物 西田達郎・辻井達一 著  
郷土の植物観察の手引 鹿追町立瓜幕中学校  
編集  
北海道の森林植物図鑑 草花編 北海道国土緑

化推進委員会 編集  
北海道の花 鮫島惇一郎・辻井達一 著  
十勝の植物 十勝教育研究所 編集  
浦幌の主な野草 浦幌町教育研究所 編集

## 浦幌新四国八十八ヶ所について(上)

新宮廣

「浦幌新四国八十八ヶ所」は、昭和36年(1961)

5月に、東山公園内の浦幌神社の南側から山頂に至る遊歩道に沿って安置された。

その後、同48年(1973)、浦幌一静内線町道の改良工事に伴って現在地へ移設して現在に至っている。

その建立の経過は、昭和35年4月、発願者河内治作が、ある日、逝去した妻の夢を見て、四国八十八ヶ所の仏像の安置を志し、浄福寺(浦幌町字本町)住職北元哲誠に相談して、その安置に加え旧墓地の無縁仏をまつり、戦没者の英靈を慰め、この地一帯を「東山公園」として一大荘厳の地域として多くの方々の憩いの場とし、且つ靈場を参拝され、あまねく仏と弘法大師の恩恵を身に受け、清らかな温かい精神で社会に尽くすよう、特に青少年の情操的、健全育成の場にしようと町有地借用請願書を町に提出。その快諾を得て、橋本栄吉、石田武をはじめ、各地区の有志とともに全町を遍歴して、協賛者と浄財を集め、「四国新八十八ヶ所靈場建設委員会」を設置して、滝川市の美術家山崎鶴吉に彫刻を依頼して作製されたものである。

この靈場入口には、「浦幌新四国八十八ヶ所靈場」の碑が建ち、広場には管理と憩いの場の建物、その両側に仏像建立の趣旨の像と橋本栄吉・トモエ施主の詩碑があって、正面には発願飯山真佐吉建立の弘法大師像に続いて107体の仏像が安置されている。

昭和36年5月21日完成と同時に建設委員会は解散し、「浦幌新四国八十八ヶ所奉贊会」を設置して、同年6月25日、関係者並びに来賓多数参列のもとに開眼式を挙行してその完成を祝い、以来毎年5月21日(弘法大師の命日)に山開き、10月21日には山終いを行ってきた。

### ●浦幌新四国八十八ヶ所靈場

所在地 浦幌町字東山町(東山公園内)  
建立年月日 昭和36年5月  
碑の総高 189cm

### 旨趣の立建像佛

昭和三十五年四月本町の河内治作翁或日の事逝去した愛妻の夢を見て四国八十八ヶ所の仏像の安置を志し之れを浦幌町高砂会会長淨福寺住職北元啓誠氏に相談し茲に快諾を得て浦幌町長吉川利昌氏に町有地借用請願書提出町議会の協賛を得て建立の運びとなつたのであるが最初の意志に加ふるに数名の人々の協力を以て東山公園とし更に旧墓地の無縁仏をまつり戦没者の英靈を慰め更に東山公園をして一大荘嚴なる地域となさんとするものである而し乍らその建立の費用は誠に莫大なものがあつて容易ならず即ちそこで発願の本人は勿論橋本栄吉石田武等各部落の有志と共に全町を遍歴協賛を求め浄財を集め一年余の歳月を経て完成を見たのがこれが作者滝川市の住人の石工山崎鶴吉氏は現代稀に見る美術家でありこの作にあたつて現地に見る他の特志者と同じく本靈場のために盡されたのであるこれ等の靈場を参拝せられあまねく佛と弘法大師の恩恵を身に受け清らかな温かき精神の持主となつて社会に尽すことの出来る青少年が一人でも多く得られるならば望外の願成就と云へよう

合掌

佛像建立の碑文